

( 電子メール施行 )  
農技 第 1706 号  
平成 30 年 3 月 20 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第 3 号 を下記のとおり発表します。防除指導等の参考としてご活用下さい。

早生系品種および中生品種のタマネギ圃場で、べと病の越年罹病株を確認しています。圃場での発生状況を観察し、「越年罹病株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

平成 29 年度 病虫害発生予察防除情報 第 3 号  
タマネギべと病の防除対策について

- |        |      |
|--------|------|
| 1 対象作物 | タマネギ |
| 2 病虫害名 | べと病  |
| 3 発生地域 | 淡路地域 |

4 発生状況と今後の発生

一昨年春期に本病が多発し、土壌中のべと病菌の卵孢子密度が上がっていると考えられる。3月5日および16日に実施した現地調査において、定点では発生は認められなかったが、常発地点の早生系および中生品種で越年罹病株（一次感染株）を確認している。

また、3月15日付の1カ月予報によると、近畿地方の気温は高い確率が50%、降水量は平年並で天気は数日の周期で変わると予想されていることから、ある程度の降水が見込まれる。以上のことから、今後、越年罹病株の発生や二次感染がみられると考えられる。

5 本病の特徴について

本病は卵菌類に属するべと病菌による病害であり、前年秋の苗床や圃場に残った卵孢子から感染し、大部分が無病徴のまま越冬して春期に越年罹病株として発病する。栽培圃場においては、越年罹病株が感染源となって二次感染株が発生し、ひどい場合には葉が枯死する。発病は気温15℃前後で高湿度状態（曇雨天）が、1～2日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

6 防除対策について

(1) 圃場の排水が悪いと、本病の発病を助長するので、排水対策を徹底すること。

- (2) 圃場で発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギべと病対策マニュアル(技術者版)を活用して、越年罹病株(写真)の完全な抜き取りと薬剤防除を徹底すること。
- (3) 越年罹病株の抜き取りにあたっては、本病の病徴は、圃場内で徐々に発現してくるため、茎葉が繁茂するまで定期的に(1週間に1度程度)よく観察すること。また、孢子飛散を防ぐため、抜き取った罹病株は直ちにポリ袋などに入れ、必ず圃場外へ持ち出し、適正に処分する。
- (4) 薬剤防除は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う。散布は降雨前に薬剤が乾くように余裕をもって行うことが望ましい。なお、薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。
- (5) 極早生・早生品種及びネギ圃場で発生したべと病が、周辺の中生・晩生品種の感染源になるため、地域全体で防除対策に取り組むこと。



写真 越年罹病株(葉身が湾曲・黄化し、分生孢子を形成する。右写真のように生育が悪く、草丈が低くなることもある。)

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222